

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	前期		
科目名	外国語(英語)	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	堀切 修宏	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	小学校での外国語活動の教育、中学、高等専門学校でのCLILを用いた教育実践、学習塾の運営						
授業のねらい (到達目標)	児童を対象にする外国語(英語)教育について、それぞれの発達段階における具体的な指導内容を理解することができる。						
授業概要	小学校における英語教育を進めるために、児童の発達段階の特徴を知り、発達段階に応じた英語教育を実践できるよう知識を深める。						
テキスト							
授業計画	第1回	小学校における英語教育について					
	第2回	学習指導要領の目標と内容					
	第3回	第二言語の習得について					
	第4回	英語学習の具体的なあり方					
	第5回	指導の効果的なインプット					
	第6回	英語の音声					
	第7回	発音と綴りの関係					
	第8回	文法指導					
	第9回	読む活動「絵本」					
	第10回	読む活動の具体的指導					
	第11回	話す活動					
	第12回	指導者に求められる話す力					
	第13回	評価規準と観点別評価					
	第14回	いろいろな教材					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	前期		
科目名	総合的な学習の時間の指導法	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	宮城県小中学校1.5年, 山形県小学校9年, 国立大教育学部及び大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2年, 私大教員学部の教育研究職助手5年, 教育実習センター5年						
授業のねらい (到達目標)	実践的指導力を有する教員としての資質を高められるように, 基礎的な知識習得と教育現況をつかめるようにする。 子どもの生活に根ざした学校や学級の「総合的な学習の時間」年間計画立案ができるようにする。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学習と総合的な学習の時間との違い ・総合的な学習の時間のねらいと目標そして内容 ・総合的な学習の時間の計画立案 ・総合的な学習の時間の評価 						
テキスト	小学校 学習指導要領 総合的な学習の時間 編						
授業計画	第1回	総合的な学習の時間の学習指導要領における位置づけ					
	第2回	小学校における総合的な学習の時間にかかる全体的な計画					
	第3回	地域・文化を核とする総合的な学習の時間のあり方					
	第4回	総合的な学習の時間における教師の支援					
	第5回	総合的な学習の時間における教師の支援					
	第6回	総合的な学習の時間における, 他者との課題解決の重要性					
	第7回	総合的な学習の時間における, 他者との課題解決の重要性					
	第8回	総合的な学習の時間における評価					
	第9回	総合的な学習の時間における評価					
	第10回	総合的な学習の時間の年間計画と学校づくり					
	第11回	総合的な学習の時間の学年, 学級年間計画					
	第12回	総合的な学習の時間の年間計画立案					
	第13回	総合的な学習の時間の年間計画立案発表会					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	後期		
科目名	音楽科指導法	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	宮城県小中学校1.5年, 山形県小学校9年, 国立大大学及び大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2年, 私大教員養成学部の教育研究職助手5年						
授業のねらい (到達目標)	音楽科の目標と内容を理解し, 音楽科の授業づくりの基本を習得する 音楽科学習指導案作成を行う						
授業概要	H29年度学習指導要領に基づく, 小学校音楽科学習指導に関する知識的理解を図る。 また, 音楽科学習指導案作成を通じ, メリハリをつけた授業の流れの構築化を図る。指揮法の基礎を理解し, 指揮技術体験に取り組む。						
テキスト	姫路大学「音楽科指導法」, 小学校音楽科教科書「小学生の音楽」「音楽のおくりもの」						
授業計画	第1回	音楽科の教科的特徴と教科用図書					
	第2回	領域の構造(A表現, B鑑賞, 共通事項)					
	第3回	音楽科指導案作成時の留意点					
	第4回	教科書教材曲の指導の実際					
	第5回	指揮法理論編					
	第6回	指揮実践編					
	第7回	自作教材曲づくり					
	第8回	自作教材曲づくり					
	第9回	自作教材曲の発表会					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	後期	
科目名	保育内容(環境Ⅱ)	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。					
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「環境」のねらいの意義を理解し、適切なねらいを立て、計画を実践する。 2. 子どもを取り巻く様々な環境について理解し、身近な環境への問題意識を持つ。 3. 計画実践を通して、保育実践力向上を図る。 					
授業概要	現在の子どもを取り巻く環境の変化について学び、保育の環境や環境構成のあり方について考え、課題解決のための保育計画の立案を行い、計画実践する。					
テキスト	なし					
授業計画	第1回	子どもの身近な環境の変化についての考察と領域のねらいの意義				
	第2回	環境の変化についての考察からのねらいの設定				
	第3回	校外学習計画				
	第4回	校外学習計画				
	第5回	校外学習計画				
	第6回	校外学習計画				
	第7回	指導案の作成				
	第8回	指導案の作成				
	第9回	校外学習				
	第10回	校外学習				
	第11回	校外学習				
	第12回	校外学習				
	第13回	振り返り				
	第14回	振り返り				
	第15回	振り返り				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	後期		
科目名	保育内容人間関係Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	原田 明子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育園での勤務経験から、子どもの発達を促す保育内容について理論に基づき実践的指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域人間関係のねらいや内容の取扱いについて理解する。 ・人間関係の発達や自立心・協同性の発達を理解し、保育実践に応用できる。 						
授業概要	1) 事例を用い、さまざまな子どもの人と関わる力の育ちを考察する。 2) 保育者としてどのように人と関わる力を育てていくのか、保育者として子どもとどのような関係を築いていくか考察する。						
テキスト	幼稚園教育要領,保育所保育指針						
授業計画	第1回	保育の基本と人との関わり					
	第2回	演習1「私は誰」「対人関係図」、ワークシート1					
	第3回	乳児期における人との関わりでの発達、ワークシート2					
	第4回	遊びの中で育つ人との関わり、演習3、ワークシート3					
	第5回	人との関わりを育てる保育の充実・保育者の役割					
	第6回	人との関わりが難しい子どもへの支援					
	第7回	園、家庭、地域の生活と人との関わり					
	第8回	演習4、事例 グループワーク					
	第9回	ワークシート4、領域人間関係をめぐる諸問題					
	第10回	単位認定試験					
	第11回	インドプロジェクトの事例から保育内容を考察する					
	第12回	インドプロジェクトの事例から5領域の関連を考察する					
	第13回	子どもの人と関わる力を育む保育内容を考える					
	第14回	子どもの人と関わる力を育む保育内容を考える(ロールプレイ)①					
	第15回	子どもの人と関わる力を育む保育内容を考える(ロールプレイ)②					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	前期									
科目名	精神保健	授業形態	講義	単位数	2単位									
担当教員	中村 真治	実務経験の有無		○										
実務経験教員の経歴	介護支援専門員・地域包括支援センター職員・他大学での勤務													
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本精神保健運動の歩みを概観し、教育における精神保健の意義を理解する。また、今日の教育における精神保健の在り方について考察する。 ・各発達段階における精神保健に関する諸課題と対応について理解する。 													
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・社会における精神障害者への理解の変遷を学ぶとともに、変化し続けてきた日本の精神保健運動の歩みについて学ぶ。 ・各発達段階の発達過程で生じる精神保健の諸課題について学ぶ。 ・各精神疾患についての概要について学ぶ。 													
テキスト	精神保健(姫路大学)													
授業計画	第1回	精神保健とは何か？												
	第2回	こころと社会												
	第3回	乳児期と幼児前期の精神保健												
	第4回	幼児後期の精神保健												
	第5回	児童期と精神保健①												
	第6回	児童期と精神保健②												
	第7回	青年期と精神保健①												
	第8回	青年期と精神保健②												
	第9回	青年期と精神保健③												
	第10回	成人期以降の精神保健												
	第11回	こころの病気を知る①												
	第12回	こころの病気を知る②												
	第13回	こころの病気を知る③												
	第14回	学校精神保健												
	第15回	まとめ												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	前期									
科目名	教育方法論	授業形態	講義	単位数	2単位									
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無	○											
実務経験教員の経歴	宮城県小中学校1.5年, 山形県小学校9年, 国立大教育学部及び大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2年, 私大教員学部の教育研究職助手5年, 教育実習センター5年													
授業のねらい (到達目標)	教育方法の歴史を振り返るとともに、指導や学習における基礎的な知識を身につけることができるようにする。													
授業概要	教育史、学習方法、教材、学習評価の方法を中心に行う。 授業を通して得た知識を実践の場で生かせるようにする。													
テキスト	姫路テキスト「教育方法論」													
授業計画	第1回	・教育方法学の位置と教育方法の意義												
	第2回	・教育方法の守備範囲及び教育目標と内容との関係等・ヘルバルト学派												
	第3回	・教育方法の歴史的展開(近代の教育・現代の教育)ヘルバルト学派・デューイ												
	第4回	・教育方法の歴史的展開(現代の教育・教育工学)デューイ												
	第5回	・課題レポートに関わるまとめ												
	第6回	・課題レポートに関わるまとめ												
	第7回	・我が国における教育方法の変遷(1)仮説実験, 分団式動的教育論, ~式教育等												
	第8回	・我が国における教育方法の変遷(2) 集団教育・個別教育・ペア学習・問題解決学習・課題解決学習等												
	第9回	・教育方法とICT												
	第10回	・教育方法とICT												
	第11回	・へき地複式指導法												
	第12回	・海外の教育方法												
	第13回													
	第14回													
	第15回													
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	前期		
科目名	生徒指導・進路指導	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	吉原 修英	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし、現場で求められる教員の資質に基づいて実践的な指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	生徒指導及び進路指導の理論と方法を理解する。						
授業概要	生徒指導や進路指導の意義と方法について生徒指導提要をもとに理解する。また、児童生徒の不適応行動等現代的課題の対応について定義や教員に求められる役割、指導のあり方について整理して学ぶ。						
テキスト	生徒指導提要						
授業計画	第1回	生徒指導・進路指導とは					
	第2回	生徒指導の領域・内容における社会性指導, 独善的指導態度, 孤立主義的指導態度					
	第3回	非社会的な行動と反社会的な問題行動					
	第4回	いじめの定義, いじめの構造, いじめ対策について					
	第5回	児童虐待の定義					
	第6回	不登校に関する基本的な考え方					
	第7回	児童生徒の発する問題行動のサイン					
	第8回	児童生徒理解の必要性					
	第9回	集団指導における教育的意義					
	第10回	学校における生徒指導体制					
	第11回	キャリア教育					
	第12回	ケース会議, 職員の専門性と協働性					
	第13回	予防的教育相談					
	第14回	生徒指導の機能を生かした学校行事の在り方					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する			50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	前期		
科目名	生徒指導の理論と方法	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	吉原 修英	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし、現場で求められる教員の資質に基づいて実践的な指導を行						
授業のねらい (到達目標)	生徒指導及び進路指導の理論と方法を理解する。						
授業概要	生徒指導や進路指導の意義と方法について生徒指導提要をもとに理解する。また、児童生徒の不適應行動等現代的課題の対応について定義や教員に求められる役割、指導のあり方について整理して学ぶ。						
テキスト	生徒指導提要						
授業計画	第1回	生徒指導・進路指導とは					
	第2回	生徒指導の領域・内容における社会性指導, 独善的指導態度, 孤立主義的指導態度					
	第3回	非社会的な行動と反社会的な問題行動					
	第4回	いじめの定義, いじめの構造, いじめ対策について					
	第5回	児童虐待の定義					
	第6回	不登校に関する基本的な考え方					
	第7回	児童生徒の発する問題行動のサイン					
	第8回	児童生徒理解の必要性					
	第9回	集団指導における教育的意義					
	第10回	学校における生徒指導体制					
	第11回	キャリア教育					
	第12回	ケース会議, 職員の専門性と協働性					
	第13回	予防的教育相談					
	第14回	生徒指導の機能を生かした学校行事の在り方					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	後期	
科目名	外国語(英語)指導法	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	堀切 修宏	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	小学校での外国語活動の教育、中学、高等専門学校でのCLILを用いた教育実践、学習塾の運営					
授業のねらい (到達目標)	①コミュニケーション活動を通じた意味のあるやり取りを行う重要性を理解し、指導に活かすことができる。②題材の選定、教材研究の仕方について理解し、適切に題材選定や教材研究ができる。					
授業概要	小学校における「外国語活動」及び「外国語」の学習・指導・評価に必要な基本的な知識及び指導技術を身につける。					
テキスト	①新編 小学校英語教育法入門 ②We Can! 1 ③We Can! 2					
授業計画	第1回	教材・教具の活用法				
	第2回	評価の意義と評価法				
	第3回	授業過程と指導案の作成				
	第4回	授業づくりについて				
	第5回	教材研究について				
	第6回	ALTとのTT指導				
	第7回	模擬授業の授業計画・授業準備①				
	第8回	模擬授業の授業計画・授業準備②				
	第9回	模擬授業の授業計画・授業準備③				
	第10回	模擬授業①				
	第11回	模擬授業②				
	第12回	模擬授業③				
	第13回	模擬授業④				
	第14回	模擬授業の振り返り				
	第15回	小学校外国語教育の課題と展望				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	前期		
科目名	教育実習事前・事後指導(小学校)	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	宮城県小中学校1.5年, 山形県小学校9年, 国立大大学及び大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2年, 私大教員養成学部の教育研究職助手5年						
授業のねらい (到達目標)	①小学校実習の目的の理解 ②実習に必要な知識理解 ③実践的能力を模擬授業を通じて会得						
授業概要	【事前指導】教育実習に向けて、学校教育・児童の発達の特質・学級集団・学級経営・道徳・授業評価など、実習前に理解しておくべき内容について学ぶことを目的とする。 【事後指導】自身が受けた教育実習を振り返り、授業と実習全般について考察した上で、卒業するまでに深めておくべき自己の課題を明確にする。さらに、教育実習を終えた段階で、教職について自分なりに考察することを目的とする。						
テキスト	教育実習ハンドブック(上越教育大学出版)						
授業計画	第1回	事前オリエンテーションで押さえるべき内容・演習					
	第2回	学級集団理解と教室経営					
	第3回	学校教育全般理解・校務分掌・教師の仕事					
	第4回	学級集団理解と教室経営					
	第5回	学級経営					
	第6回	学習指導における, 学習状況のみとり					
	第7回	授業準備・資料作成について					
	第8回	板書					
	第9回	授業準備等					
	第10回	授業準備等					
	第11回	授業準備等					
	第12回	授業準備等					
	第13回	授業準備等					
	第14回	実習ふりかえり					
	第15回	実習ふりかえり					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	後期									
科目名	書写	授業形態	演習	単位数	1単位									
担当教員	岡村 浩	実務経験の有無	○											
実務経験教員の経歴	小学生対象の「文字と書道に親しむ」硬毛筆公開講座、「文字文化に関する意識」として小中高教員を対象とした指導法講座を定期的に関講													
授業のねらい (到達目標)	書写の指導力を身につけるために、硬筆・毛筆・文字・書写の指導内容に関する基礎的な知識と技術を修得する。													
授業概要	書写の指導力を身につけるための学習。硬筆・毛筆・文字・書写の指導内容に関する基礎的な知識と技術の修得を目指す。													
テキスト	なし													
授業計画	第1回	書写について												
	第2回	書写の学習内容												
	第3回	文字、「漢字」の成り立ち説明												
	第4回	文字、「かな」の成り立ち説明												
	第5回	「かな、漢字仮名交じり文」の練習①												
	第6回	「かな、漢字仮名交じり文」の練習②												
	第7回	添削について												
	第8回	採点、評価の仕方												
	第9回	指導案 毛筆												
	第10回	指導案 硬筆												
	第11回	ひらがな表記の作品												
	第12回	ローマ字表記の作品												
	第13回	カタカナ表記の作品												
	第14回	自由作品づくり												
	第15回	まとめ												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	前期		
科目名	薬理学	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	安達 博	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	薬剤師として、調剤薬局の経営ならびに勤務						
授業のねらい (到達目標)	薬物に対する基本的な知識を習得できるようにする。						
授業概要	様々な疾患の薬物治療について理解するとともに、薬物の特徴、作用機序、人体に及ぼす影響について学ぶ。						
テキスト	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち						
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	体内における薬の動きと					
	第3回	気管支喘息について					
	第4回	細菌感染とウイルス感染					
	第5回	てんかんについて					
	第6回	糖尿病について					
	第7回	精神疾患について うつ病, 不眠症					
	第8回	精神疾患について 統合失調症					
	第9回	パーキンソン病					
	第10回	アルツハイマー型認知症					
	第11回	高血圧					
	第12回	狭心症, 心筋梗塞					
	第13回	不整脈, 心不全					
	第14回	脂質異常症					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	前期		
科目名	保育の心理学	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	原田 明子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育園での勤務経験から、子どもの発達を促す保育内容について理論に基づき実践的指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	本授業の目的は、発達心理学の知見から乳幼児期への理解を深めることである。具体的には乳幼児期の発達知見から保育者の役割について理解する。また、乳幼児期の発達と児童期の発達の連続性を鑑み、幼保小の接続性の重要性について理科を深める。						
授業概要	ヒトの心の仕組みは、生まれてから死ぬまで不変なものではない特に乳幼児期の発達には心身ともに多様な変容を遂げる。そこで本授業では、乳幼児期の心理的・身体的・社会的特徴等について広く学ぶとともに、児童期の接続性について学ぶ。						
テキスト	発達心理学(姫路大学)						
授業計画	第1回	発達とは					
	第2回	身体と運動機能の発達					
	第3回	知覚の発達					
	第4回	知的機能の発達					
	第5回	言語・コミュニケーションの発達					
	第6回	遊びの発達					
	第7回	愛着の発達:親子関係の成立					
	第8回	社会性の発達					
	第9回	道徳性の発達					
	第10回	人格の発達					
	第11回	情緒の発達					
	第12回	子どもの発達の背後にあるもの:子育てのストレス					
	第13回	自己概念の発達					
	第14回	自己統制の発達					
	第15回	総まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		50%		25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	後期		
科目名	子育て支援	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	児童養護施設での現場経験から、施設で生活する子どもたちの実際の姿や支援内容について実践的な指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解し身につける。 子育て支援の意義や役割について理解し、保育者としての子育て支援の基本姿勢について関心を持ち、子育て支援の意義や役割、基本姿勢など支援の実際を学ぶ。						
授業概要	保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解するとともに、保育士の行う子育て支援の展開を学ぶ。						
テキスト							
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	保育の専門性と子育て支援					
	第3回	保護者に対する子育て支援					
	第4回	ソーシャルワーク理論					
	第5回	保育士の行う子育て支援(方法)					
	第6回	保育士の行う子育て支援(技術)					
	第7回	共感的理解、傾聴(演習)					
	第8回	非言語コミュニケーション(演習)					
	第9回	リフレーミング(演習)					
	第10回	自己覚知(演習)					
	第11回	価値観(演習)					
	第12回	記録(演習)					
	第13回	社会資源(演習)					
	第14回	事例分析①					
	第15回	事例分析②					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	後期		
科目名	教職実践演習	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	宮城県公立小中学校 1.5か年, 山形県小学校教員9か年, 国立大学法人教員養成系大学および大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2か年						
授業のねらい (到達目標)	大学4年間で学んだ学習知と教育実習等で得られた教科指導力や生徒指導力等の実践知と統合を図り, 使命感や責任感に裏付けされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質構築と確認を行う						
授業概要	① 使命感や責任感, 教育的愛情 ② 社会性や対人関係能力 ③ 児童理解と学級経営力 ④ 教科・保育内容の指導力						
テキスト	担当教員が所持する「教職実践演習 令和7年度版」(上越教育大学出版会)ワークブックを活用						
授業計画	第1回	学級経営における教師の対応(ロールプレイング)					
	第2回	教育課題解決への教師としてのアプローチ(ロールプレイング)					
	第3回	教育課題解決への教師としてのアプローチ(ロールプレイング)					
	第4回	教育課題解決への教師としてのアプローチ(ロールプレイング)					
	第5回	学級経営案立案					
	第6回	非違行為と法規					
	第7回	「私の学級経営方針」(意見発表と交流)					
	第8回	「私の学級経営方針」(意見発表と交流)					
	第9回	児童会活動・自治的活動時の子どもの動かし方					
	第10回	児童会活動・自治的活動時の子どもの動かし方					
	第11回	教育課題解決への教師としてのアプローチ(ロールプレイング)					
	第12回	視聴覚教材への理解と実践					
	第13回	教材開発					
	第14回	教材開発					
	第15回	教材開発					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年
科目名	教育実習(小学校)	授業形態	実習	単位数	4単位
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	宮城県小中学校1.5年, 山形県小学校9年, 国立大大学及び大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2年, 私大教員養成学部の教育研究職助手5年				
授業のねらい (到達目標)	<p>1)教育実習の意義、心構えについて理解することができる。</p> <p>2)教育職員としての心構えについて理解することができる。</p> <p>3)実習日誌を正しい方法で執筆できる。指導案の作成ができる。</p> <p>4)実習の成果をレポートにまとめることができる。</p>				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場において授業の観察および実践を行い、実践的指導力の基礎を習得する。 ・指導教員の下で学級経営に携わり、学級担任の業務とともに児童生徒を理解する。 ・学校での諸活動に関わりながら、教職員としての職務およびサービスを遂行する。 				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習校による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・授業実践・生徒指導の評価基準に基づく)及び実習日誌を総合して評価をする。</p> <p>上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する</p>				

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年
科目名	地域ボランティア	授業形態	実習	単位数	1単位
担当教員	曾根原 和明	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	<p>小学校教員として12年間勤務し、学級担任として地域と連携した教育活動に取り組んできた。地域行事や清掃活動、防災訓練、高齢者施設との交流などを通して、児童が地域に貢献しながら他者と関わる力を育むことを重視してきた。こうした経験を踏まえ、本授業では、地域社会におけるボランティア活動の意義や実践に向けた姿勢、地域との協働の在り方について具体的に伝える。</p>				
授業のねらい (到達目標)	<p>地域の教育活動や社会福祉活動などへのボランティア活動を通して、地域貢献と自身の人格の向上に成果を上げることが目的とする。</p>				
授業概要	<p>1. 活動内容 地域の特色を生かした奉仕活動、地域社会に対する奉仕活動であることを前提とする。活動内容の詳細は、活動先と相談し決定する。</p> <p>2. 活動時間 活動先が複数になっても構わないが、活動時間の合計が45時間となるよう調整する。</p>				
単位認定 ・ 評価方法	<p>作成した資料の妥当性:丁寧な文字、誤字脱字などの基本的な作成ルールに沿って書いている。【10%】</p> <p>活動記録:活動記録において、活動内容を具体的に書いている。【45%】</p> <p>活動のふりかえり:活動の振り返りについて、学んだことを今後どのように生かすかなどの点について適切に書いている。【45%】</p>				

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	前期		
科目名	教材研究Ⅲ	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	阿部 裕子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	公立、私立保育園及び認定こども園での24年の勤務経験から、現場に役立つ保育教材全般について実践的な授業を行う						
授業のねらい (到達目標)	子どもが楽しめるグッズを作り、遊び方を考えて確実に使える物にする いろいろな素材に親しんで、保育・教育のポケットを充実させることで技術の向上を図る						
授業概要	保育者・小学校教諭・養護教諭・施設職員等、各自の目指す章句種に合わせた現場で役立つ制作や、いろいろな素材を使ったあそびを体験し、その応用を考える						
テキスト	なし						
授業計画	第1回	各自の制作①					
	第2回	各自の制作①					
	第3回	各自の制作①					
	第4回	各自の制作②					
	第5回	各自の制作②					
	第6回	各自の制作②					
	第7回	各自の制作③					
	第8回	各自の制作③					
	第9回	各自の制作③					
	第10回	各自の制作④					
	第11回	各自の制作④					
	第12回	各自の制作④					
	第13回	各自の制作⑤					
	第14回	各自の制作⑤					
	第15回	各自の制作⑤					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年(前期)	
科目名	卒業研究	授業形態	演習	単位数	2単位	
担当教員	曾根原 和明	実務経験の有無		○		
実務経験教員の経歴	小学校教員として12年間勤務し、教育現場での実践を通して、児童理解や指導方法、学級経営に関する課題を自ら見出し、同僚との協議や実践研究を重ねてきた。こうした現場に根ざした探究的姿勢と課題解決への取り組みをもとに、本授業では、教育・保育に関する研究課題の設定、調査・分析、成果のまとめ方に至るまで、学生一人ひとりの研究活動を丁寧に支援する。					
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育・保育に関する課題を自ら発見し、研究テーマとして設定できる。 2 適切な研究方法を選択し、研究計画を立案できる。 3 データ収集・分析を通じて、課題解決に向けた考察ができる。 4 研究成果を論文としてまとめ、発表できる。 5 研究倫理を理解し、適切に研究を遂行できる。 					
授業概要	本授業は、教育・保育分野における課題に対して自ら問いを立て、計画的に調査・分析を行い、その成果を論文として論理的にまとめる力を育成することを目的とします。また、研究活動を通じて、課題解決力、批判的思考力、表現力、ならびに研究倫理に基づいた態度を身に付けることを目指します。授業は個別面談やグループワーク、発表会などを取り入れ、学生の進捗状況に応じて適切な支援を行いながら、各自の研究を段階的に進めていきます。					
テキスト	なし					
授業計画	第1回	オリエンテーション(授業の目的・授業計画の確認、研究テーマの初期検討)				
	第2回	研究テーマの設定(教育・保育分野の課題抽出、テーマの絞り込み)				
	第3回	先行研究の調査(文献検索の方法、先行研究のレビュー)				
	第4回	研究計画の立案(研究目的・仮説の設定、計画書の作成)				
	第5回	研究倫理の理解(倫理的配慮、インフォームド・コンセント)				
	第6回	研究方法の選定(質的・量的研究の特徴と選択)				
	第7回	データ収集方法の検討(アンケート、インタビュー、観察法の設計)				
	第8回	研究計画の発表(各自の研究計画のプレゼンテーション)				
	第9回	フィードバックと修正(教員・学生からの意見を基に計画の修正)				
	第10回	データ収集の準備(調査票の作成、実施計画の確認)				
	第11回	データ収集①(フィールドワークの実施)				
	第12回	データ収集②(継続的なデータ収集と記録)				
	第13回	データ整理(収集データの整理と入力)				
	第14回	データ分析①(基本的な分析手法の学習)				
	第15回	データ分析②(分析結果の解釈と考察)				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年(後期)	
科目名	卒業研究	授業形態	演習	単位数	2単位	
担当教員	曾根原 和明	実務経験の有無		○		
実務経験教員の経歴	小学校教員として12年間勤務し、教育現場での実践を通して、児童理解や指導方法、学級経営に関する課題を自ら見出し、同僚との協議や実践研究を重ねてきた。こうした現場に根ざした探究的姿勢と課題解決への取り組みをもとに、本授業では、教育・保育に関する研究課題の設定、調査・分析、成果のまとめ方に至るまで、学生一人ひとりの研究活動を丁寧に支援する。					
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育・保育に関する課題を自ら発見し、研究テーマとして設定できる。 2 適切な研究方法を選択し、研究計画を立案できる。 3 データ収集・分析を通じて、課題解決に向けた考察ができる。 4 研究成果を論文としてまとめ、発表できる。 5 研究倫理を理解し、適切に研究を遂行できる。 					
授業概要	本授業は、教育・保育分野における課題に対して自ら問いを立て、計画的に調査・分析を行い、その成果を論文として論理的にまとめる力を育成することを目的とします。また、研究活動を通じて、課題解決力、批判的思考力、表現力、ならびに研究倫理に基づいた態度を身に付けることを目指します。授業は個別面談やグループワーク、発表会などを取り入れ、学生の進捗状況に応じて適切な支援を行いながら、各自の研究を段階的に進めていきます。					
テキスト	なし					
授業計画	第1回	中間報告の準備(中間報告書の作成)				
	第2回	中間報告会(研究の進捗状況の発表と意見交換)				
	第3回	フィードバックと改善(中間報告を基にした研究の修正)				
	第4回	論文構成の検討(論文の構成要素と執筆のポイント)				
	第5回	論文執筆①(方法・結果の執筆)				
	第6回	論文執筆②(考察・結論の執筆)				
	第7回	論文執筆③(序論・背景の執筆)				
	第8回	論文の校正(論文全体の見直しと修正)				
	第9回	発表準備①(発表資料の作成)				
	第10回	発表準備②(プレゼンテーションの練習)				
	第11回	最終発表会①(研究成果の発表(前半))				
	第12回	最終発表会②(研究成果の発表(後半))				
	第13回	フィードバックと総括(発表への意見交換、研究の総括)				
	第14回	論文の最終提出(完成した論文の提出)				
	第15回	振り返りと今後の展望(研究活動の振り返りと将来への活用)				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						